

## トピックス

### マスクのフィットテストが義務化されました！金属アーク溶接従事者が対象です

特定化学物質に指定されている、金属アーク溶接等作業中に発生する「溶接ヒューム」は健康障害を引き起こす可能性があるため、従事する労働者は有効な呼吸用保護具（マスク）を使用しなければなりません。そこで「継続」して行う「屋内作業場」の労働者は、呼吸用保護具を適切に装着できていることを確認するため、令和5年4月1日よりフィットテストを1年以内ごとに1回実施（記録は3年間保管）することが義務となりました。

#### 『フィットテスト』とは。

マスクが正しく装着されているか？つまりマスクがしっかりと顔に密着しているか、またマスクのフィルターがしっかりと機能しているのかを決められた方法で確認するテストのことです。

マスクフィットテストには「定量的フィットテスト」と「定性的フィットテスト」の2種類の方法があります。

またフィットテストを理解するうえで『フィットファクタ』という用語も重要です。

#### 『フィットファクタ』とは

マスク内部と外部の粉じん粒子数を測定し、この粒子数の比率を基に基準値が示されます。これがフィットファクタです。要求されるフィットファクタはマスクの形状により異なります。フィットテストの基本は、実際に測定した「値」が要求フィットファクタを上回っているか（合格）を確認することとなります。

#### ○定量的フィットテスト

専用の計測装置を用いて、面体の内部と外部の粉じん粒子数を実際に計測する方法です。数値が示されるため客観性に優れているテスト方法です。高価な計測機器が必要であり、専門的な知識と経験を持つ者が実施することが非常に望ましいです。またテスト時にマスクを加工（チューブを通すため）する必要があり、加工したマスクは実作業では使用できなくなります。



定量的フィットテストのイメージ

#### ○定性的フィットテスト

マスクをした被験者にフードをかぶせて、フードの中にサッカリン等の試験溶液を噴霧して、甘味を感じるかどうかでテストする方法です。被験者が甘味を感じなければ合格（フィットファクタが100以上と認定）となります。テスト時にマスクの加工は不要で専用の計測機器も必要としないので負担は減りますが、客観性に乏しくなるといえます。ただし専門的な知識と経験を持つ者が実施することが望ましいのは同じです。尚、全面形面体マスクのテストには使えません。



定性的フィットテストのイメージ

イラストはミドリ安全社のHPより掲載

面体の種類	要求フィットファクタ	定量的フィットテスト	定性的フィットテスト
全面形	500	○	—
半面型	100	○	○